

12月

新着図書

婚活マエストロ

著者名： 宮島 未奈
出版社： 文藝春秋

40歳の三文ライター・猪名川健人は、婚活事業を営む「ドリーム・ハピネス・プランニング」の紹介記事を書く仕事を引き受ける。安っぽいホームページ、雑居ビルの中の小さな事務所……どう考えても怪しい。手作り感あふれる地味なパーティーに現れたのは、やけに姿勢のいいスーツ姿の女性・鏡原奈緒子。場違いなほどの美女だが、彼女は「私は本気で結婚を考えている人以外は来てほしくありません」と宣言する。そして生真面目にマイクを握った。そう、彼女は婚活業界では名を知らぬ者はいない〈婚活マエストロ〉だった。

作家刑事毒島の暴言

著者名： 中山 七里
出版社： 幻冬舎

炎上商法でベストセラーを目指す新人作家、文学系インフルエンサーに対抗心を燃やす書評家、実績もないのに小説教室で荒稼ぎする講師……文芸界が生んだ“承認欲求モンスター”を、毒舌で退治しろ！

またうど

著者名： 村木 嵐
出版社： 幻冬舎

徳川家重の言葉を生涯大切に続けた老中・田沼意次。彼は本当に、賄賂にまみれた悪徳政治家だったのか？

【またうど】愚直なまでに正直なまことの者全てを奪われても、志を奪うことは誰にもできない。いつか必ず、次の一里を行く者がある。

連続殺人鬼カエル男 完結編

著者名： 中山 七里
出版社： 宝島社

40万部突破の大人気シリーズ！
「心神喪失者の行為は罰しない」
刑法第39条vs連続殺人鬼
救うべきは誰か。
凄惨な殺害方法と、稚拙な犯行声明文で世間を震撼させた「カエル男連続猟奇連続殺人事件」。事件のキーマンである有働さゆりは医療刑務所から脱走し、行方知れずのままだった――。

人魚が逃げた

著者名： 青山 美智子
出版社： PHP研究所

ある3月の週末、SNS上で「人魚が逃げた」という言葉がトレンド入りした。どうやら「王子」と名乗る謎の青年が銀座の街をさまよい歩き、「僕の人魚が、いなくなってしまう……逃げたんだ。この場所に」と語っているらしい。彼の不可解な言動に、人々はだんだん興味を持ち始め。そしてその「人魚騒動」の裏では、5人の男女が「人生の節目」を迎えていた。12歳年上の女性と交際中の元タレントの会社員、娘と買い物中の主婦、絵の蒐集にのめり込みすぎるあまり妻に離婚されたコレクター、文学賞の選考結果を待つ作家、高級クラブでママとして働くホステス。

団地のふたり

著者名： 藤野 千夜
出版社： U-NEXT

五十歳を迎え、生家である団地に戻った幼馴染の二人、なっちゃん（桜井奈津子）とノエチ（太田野枝）。売れないイラストレーターのなっちゃんは今やフリマアプリでの売り上げが生計のメインで、ノエチは非常勤講師の仕事のストレスを日々友に吐き出す。保育園からの付き合いの二人がゆるく、のんびり毎日過ごす。

アジフライの正しい食べ方

著者名： 浅田 次郎
出版社： 小学館

旅と食と笑いの人気エッセイシリーズ最新刊
大物作家が遭遇した海外、国内での抱腹絶倒の出来事から身近に起こるドラマチックな出来事を絶妙の筆致で描く。ソースなのか醤油なのかタルタルなのかそれとも。。表題作の『アジフライの正しい食べ方』など読み応えたっぷりの全40篇。

すべてを蒸したい せいろレシピ

著者名： りよ子
出版社： Gakken

料理をする気力ほぼゼロの日でも、家にある食材を適当に切って、せいろに詰め、お湯を沸かしたお鍋の上にのせるだけ。どんな食材も、ふっくら、しっとりおいしく蒸し上がります。素材本来のうまみや甘みが引き出されるから、余計な調味料や油を使わなくても十分おいしい。ほったらかして調理でき、蒸し上がったなら、せいろのまま食卓へ出せるから、洗い物が少なくてすむのもうれしいところ。